

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2020年 ～～ 秋号 ～～ 第48号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《 48号内容一覧 》

はじめに（丹羽）	1
役員会から	2
県北の広場	3
県南の広場	4
神栖の広場・交流室	5
初めての当事者会	6
国リハ支援コーディネーター全国会議	8
がんばってる人⑪（加藤ドーリスさん）	9
関係機関訪問	10
障害者就業・生活支援センター「かすみ」	11
土浦市社会福祉協議会	12
高次脳機能障害支援センターだより	13
お知らせ・編集後記	14

今回の表紙の写真は、第1回目のコラージュ教室に参加された
会員さんの作品です。



#花火 #オリンピック #山中湖
東京オリンピックの時に上がるはずだった山中湖の花火
1,521 回視聴・2020/08/17



★この写真はユーチューブに掲載されたものです。

アドレスとQRコードから動画もお楽しみください。

<https://www.youtube.com/watch?v=oAHM7OtZXko>

はじめに

高次脳機能障害友の会・いばらき 顧問 丹羽真理子

この暑い最中に、リビングルームのエアコンが壊れました。10年間働いてくれたことには感謝ですが何もこんな猛暑の時に…。皆さんは、熱中症対策大丈夫ですか？

先日、「いっちゃん、ビリビリマンー高次脳機能障害なオットと私の日々」(著者：白井京子 発行：星湖舎)を読みましたが、皆さんにご紹介したいと思います。夫が2006年に病気で倒れ重度の高次脳機能障害を発症、その奥さんの京子さんが執筆しました。いっちゃんのご主人の事ですが、ビリビリマンとは、家の中の壁紙をビリビリ破いてそれを見た京子さんの反応にグラグラ笑うご主人に、京子さんが呼び名を付けたそうです。

歩けるまでに回復して仕事復帰、体の負担が重く再度倒れ、命がやっと助かりその後のリハビリ先を夢中で探しあてます。京子さんは高校教師を続けながら、86キロ離れた病院へ週末ごとに送り迎えと介護とで体も心も疲れ果てる日々を過ごします。その後、納谷クリニックの納谷敦夫先生にお会いして通院、交流が始まりました。納谷先生の言葉：「倒れて5年経ったら少うしましになるで、十年経ったらずっと楽になるからな」「あんたはなあ、お父ちゃんのことになると百二十%やるやる。二十%でよろしから。やり過ぎ」「山をつくらずに淡々とやりなさい。山をつくるから谷に落ちます」・・・やっぱり涙が湧いてきます。



あるとき仕事でとても疲弊してため息をつく京子さんを見て、いっちゃんがいきなり口笛を吹きました。その音色がとても素晴らしい上に励ましてくれる気持ちに分り京子さんは号泣しました。さらにその様子をみたいっちゃんが肩をポンポンと叩いたことで、支えられているのは自分の方だったと気付いたそうです。その後も口笛奏者やそのコンサートの体験からいっちゃんの口笛のCD作成を目指し、応援くださる方々とチームを作り完成させました。ついにいっちゃんと京子さんの居場所を作ることが出来たそうです。

京子さんのように体験本を出された方々は、皆こう言います。高次脳機能障害は特別な障がいではなく誰でもなり得るもの、広く知ってもらい理解してもらいたい。そしてそうならば本人達への手助けも手を出しやすく、すんなりと地域へ溶け込めていくのではないかと。そして、障がいを負ったら不幸で同情される対象と思わないでほしいと。本当にそうですね。社会的理解の拡大は、当事者や家族の目標であり願いです。そして、障がい=不幸と思い込んでいる人による言動はいりません。私の娘が事故に遭ったとき、リハビリをしても自力歩行はできないと言われたとき、そのほかの失ったものを次々と見せつけられたとき、欲しいと思ったのは同情ではなく一緒に寄り添ってくれる言葉であり行動でした。それを受けた時の幸福感は忘れられません。幸せは他人ではなく自分の心が決めるものです。

娘と共に長い時間を歩いてきてみると、私でさえいろいろなことを考えることになりました。京子さんの言葉：「いっちゃん、私に生きるとは？家族を守るとは？介護とは？を教えてください。」そう、同じように娘の存在が私に生きるって何？といつも問いかけてきます。そしてさらにその一所懸命な姿は、「お母さんも、私みたいにあきらめずにがんばってよ。」とハッパをかけてくるようにも見えます。・・・でもまあ、暑さと「老化」に負けないよう淡々と行くことにします。

役員会から



令和2年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
9月	6日 県南集会 11日 家族会交流室 18日 県北家族の集い 23日 神栖集会 27日 第2回当事者会	15日 役員会	3日 県北地区連絡会 (支援センター主催) 15日 会報誌発行
10月	9日 家族会交流室 28日 神栖集会 未定 県北集会	20日 役員会	
11月	13日 家族会交流室 20日 県北家族の集い 25日 神栖集会		
12月	11日 家族会交流室 23日 神栖集会 未定 県北集会	15日 役員会	15日 会報誌発行

役 員 会 報 告

令和2年 6月16日 議事 (1) 新役員との顔合わせ
(2) Web 交流室について
(3) 今後の活動について

令和2年 7月31日 議事 (1) 県北集会について
(2) 専門職協会について
(3) 当事者会について
(4) 次回広報誌の内容



家 族 会 交 流 室 か ら の 報 告

令和2年 6月12日 相談者2組 会員6名
支援センター⇒小原センター長
(浅野・高松・土井) 各コーディネーター

令和2年 7月12日 相談者なし 会員8名
支援センター⇒山中コーディネーター

令和2年 8月 9日 相談者2組 会員4名
支援センター⇒浅野コーディネーター

県北の広場

令和2年度がスタートしましたが、予定していた4月、6月の県北集会は、新型コロナウイルス感染拡大の為、開催を見合わせ中止となりました。

今回の『県北の広場』は、7月に開催した「第1回 県北集会家族の集い」の報告と「支援者紹介」を掲載しました。県北集会で一緒して下さいのお二人が自己紹介をして下さいました。

●第1回 県北集会家族の集い 報告 7月17日(金) 10:00~11:30

コロナ禍の中、時間を短縮し、検温、手消毒及び開始前、終了後には、アルコール清掃をし、ソーシャルディスタンスを心がけ開催いたしました。

久々の集いに会話も弾むはずでしたが、席が離れていたり、マスク使用の会話で、話も聞き取りにくく、いつもと違った感じでした。

とはいえ、久しぶりにお会いし、共々元気な様子に、皆笑顔で終了いたしました。

早い時期に、心おきなく、集会、家族の集いが開けることを願うばかりです。

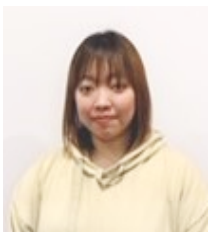


●支援者紹介



現在は、ケアホーム(水戸市住吉町)に勤務し、そこにお住まいの方や短期入所ご利用の方と一緒に過ごしています。環境やからだの変化など、日々の変化に対応していくのは大変な事ではありますが、集会で皆さんとお会いすると元気や刺激をたくさんいただき『こころの充電』ができる気がしています。これからもどうぞ宜しくお願いします。

社会福祉法人 木犀会 ケアホームスマイルすみよし 弓家幸枝



私は、約4年前より県北集会に参加させて頂いております。現在は、ケアホーム(水戸市吉沢町)に勤務しています。障がいのある方の生活の場を提供しています。日々、利用者様が住みやすい環境を考えながら一緒に過ごしています。集会では、当事者様やご家族様、支援者の皆さまとお会いし、元気や勇気ももらうとともに沢山学ばせて頂いております。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

社会福祉法人 木犀会 ケアホームスマイルよしざわ 山口美里

県南の広場



今年度は、毎年続いているコラージュ教室を4、5月に計画しましたが、残念ながら2回とも新型コロナウイルスの感染拡大により、開催することができませんでした。

しかし、「何とか集会ができないか」「会員同士で会いたい」という声が相次ぎ、7月16日に家族だけでランチ会を行いました。参加者は7名でした。

特に議題はなく、当事者たちの自粛生活の様子や、通っている施設等の様子など、やはり日ごろ気になる話題から流れていきましたが、美味しいパスタやデザートなどをいただきながらの楽しいおしゃべりになりました。日ごろ、なかなかゆっくりとした会食もままならないこともあって、話題はいろいろな方面へ。コロナのことや暑さや体調のこと等、気になることも、ちょっと忘れて楽しい笑い声が響きました。三蜜を避け、いろいろと気を遣いながらでしたが、時には私たち家族にもこのような癒しの時間も必要なのではないかと思います。

◎はじめて集会に参加された会員さんより感想をいただきました。

本田 孝夫さんより

初めて参加させていただきましたが、食事をしながら気楽な雰囲気、いろいろな話ができとてもいい気分転換になりました。樹木の緑に囲まれた個室も落ち着いたし、何しろ美味しいパスタと珈琲をゆっくりいただけたのも会話を楽しめた一助になっていたと思います。家族の支援を続ける中での貴重な「ホッとする」時間と場をありがとうございました。

◎また、今まで都合がつかず、いろいろな集会に出られませんでした。今回交流室や県南集会等に初めて出席されたという会員さんからも、それぞれの会へ参加してみた感想、また日ごろ思うことなどを寄せて頂きました。

沓脱 道恵さんより

参加してみると本当に楽しいし、ある方は得るものが多いと仰っていました。どうぞ皆様も大変かとは思いますが、これからもいろいろな会にお気軽にご参加ください。新型コロナウイルス感染拡大の中、皆様お元気で過ごしてはいかがでしょうか。緊急事態宣言も解除され、7月から家族会も始動し始めました。

家族会交流室では、自己紹介があり、また新たに施設を立ち上げるための勉強に来られた方も参加されました。

また、県南集会では、7名で、牛久ガーデンカフェにて盛りだくさんのお話が飛び交いました。私を除く参加者の皆さんは豊かな経験と知識のある方々でとても楽しい会話ができ、意義ある集会でした。

当事者の集会もスタートしましたが、茨城県高次脳機能障害者支援センターの方々のサポートで進行され、1時間半の中で当事者の本音を語る場での集い、終了後は当事者の満足された様子が楽しい時間で意義ある場だったことが感じられました。休日を返上し、指導と進行をしていただいた支援センターの皆さんに感謝申し上げたいと思います。

今回は7月の集会は頑張ってすべて出させていただき、貴重なお話、体験(当事者)ありがとうございました。家族会を担って下さる役員の方々には感謝です。今後ともよろしくお願いいたします。

最近、ALSを患い亡くなった方の言葉で「あきらめは毒、夢はくすり」とおっしゃり、負けないで頑張りましょうとの言葉を残してお亡くなりになりました。私は、非常に心を打たれました。共々頑張ってまいりましょう。

神栖の広場

神栖集会も2月26日以来活動休止していましたが、4か月ぶりに6月24日施設使用不可の中、ファミレスで勇気を出し顔合わせしました。年度替えの会計引継ぎもあり、多忙中遠方から浅野さんも合流されましたが、数十分で帰られ大変申し訳なく思いました。



7月22日、5か月ぶりの福祉センターは人数的に“密”になるという事で急きょ職員さんのアドバイスで部屋替えも出来、小原センター長、滝沢会長、新しく立ち上げ中の“あそうの郷”より箕輪さんが活動見学という事で久々和やかに実のある活動ができました。ありがとうございました。又、7月27日予定されていた市の勉強会も7月30日に念願叶い山中コーディネーターの分かりやすい説明のもと、大勢の参加者も納得された事と推察しています。お疲れさまでした。

裏方的には体調報告、使用器具の消毒 etc、大変になりましたが、家族会からコロナが出ないよう願うばかりです。

交流室報告

家族の会交流室は、筑波大付属病院の会議室をお借りして毎月第2金曜日に実施してまいりました。ところが、皆さんご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大により、地域の中核である病院をお借りすることができなくなり、3月より交流室自体も開催できなくなってしまいました。



しかし、やはり家族の交流の場を求める声が相次ぎ、6月にはウェブでの開催に初めてチャレンジしました。画面を通してではありませんが、いつものように和気あいあいと、日ごろの自粛生活の様子や悩みなどが話し合われました。

ですが、初めての参加を希望する方もいて、話し合った結果、コロナが収束し、筑波大付属病院が再度お借りできるようになるまで、土浦市のふれあいセンター「ながみね」に場所を変えて、開催することになりました。

7月8月と開催しましたが、新しい施設の立ち上げのための勉強に来られた方、また初めて、当事者を含めご家族で参加された方たちもいて、この会の意義の深さを感じることができました。支援センタースタッフからのアドバイスや、当事者同士でのやり取りもあり、来てよかったと感想もいただきました。

数名ではあっても、県内でも毎日新規感染者が出ている昨今、不安は尽きませんが、日々高次脳機能障害への対応に悩んでいる人たちのためにも、何とか交流室を休むことなく感染防止に努めながら、続けていきたいと思っております。

初めての当事者会

茨城県高次脳機能障害支援センター 山中俊広

こんにちは。高次脳機能障害支援センターの山中です。この度、7月19日(日)に第1回目の当事者会を土浦市の総合福祉会館にて実施いたしました。当日を迎えるにあたっては、会長の滝沢様、世話人をお引き受けいただいた飛田様、他の役員の方々とも打ち合わせを重ねて、準備を進めてきました。私自身、当日を迎えるまでは、参加いただける方が何人ぐらいいるのか、活発にお話が進むかなどの不安もありましたが、当日は10名以上の方にお集まりいただき、様々なお話をすることができました。当事者会終了後に「また参加したい」「同じ境遇の方々とは交流できて良かった」ととても有意義であったという声も聞くことができ、とても安心いたしましたし、嬉しかったです。参加してみて、それぞれの参加者がどんな思いを抱きながら、日々の生活や仕事をしているのか、どんなことを頑張っているのかを話し合う姿を拝見し、支援コーディネーターとしてそれぞれの思いをしっかりと汲み取りながら、日々の相談に対応できるようにしていきたいと思いました。

当事者会、当事者グループというものは全国的にも求める声が多岐に及びます。当事者同士で集まり、それぞれの体験談やこれまでの苦勞、現在の悩み等を共有し、お互いに支え合える場はとても貴重だと感じています。この当事者会は、主体となるのは当事者の皆様方であり、話したくない時にはパスをする、この場で聞いた内容については他では話さない等のルールも設けていますので、今後も多くの方にご参加いただきたいと思います。これからも安心、安全な場を家族会の皆様方と協力しながら作っていききたいなと思っております。

今後、茨城県でもこの取り組みが活発化して、各地で当事者の方が気軽に集まれる場が徐々にでも増えることを願っております。今後ともご協力ください。よろしくお願いいたします。



『当事者の会が始動♪』

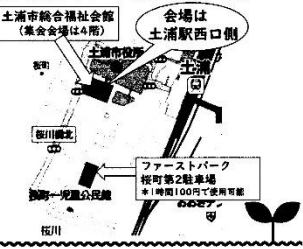
待ちに待った当事者の会が開催されました。

関係者のみなさまにあたたかく見守っていただいたことで自らも安心した心境で、なんとか進行のサポートを務めることができましたことに深く感謝しております。参加者のみなさまがどんな感想をもたれたか、とても気になるところです。

個人的な意見になりますが、

「当事者が安心して気軽に参加し、本音を共有しあえる語り場」が充実することで、高次脳機能障害を取り巻く環境がどんどん切り開かれ、理解を広げる大切な場だと感じた初回となりました。引き続き、当事者の意見を尊重した「当事者軸の集会」をサポートできるよう努力します。次回の開催が楽しみです！

飛田利恵

<div data-bbox="204 952 742 1019"><p>高次脳機能障害友の会 いばらき</p><h3>第2回 当事者の集会</h3></div> <div data-bbox="263 1097 694 1198"><p>8月に入り、ひととき厳しい日差しが降りつけておりますが、いかがお過ごしでしょうか？高次脳機能障害の当事者のみなさまが集う会の開催日が決定しました。当事者同士だからこそ本音で語り合える楽しい時間を一緒に過ごしましょう！季節柄くれぐれもお体ご自愛下さい。</p></div> <div data-bbox="247 1209 710 1377"><p>日時： 令和2年 9月 27日（日）13：00～14：30 場所： 土浦市総合福祉会館 ウララビル2 4階 住所： 土浦市大和町9番2号 ㊟029-821-5995 内容： 「当事者のみなさまが安心・安全に集える会」 協力： 茨城県高次脳機能障害支援センター （当日は言語聴覚士のサポートもあります） 担当者： 飛田 利恵（新役員）</p></div> <div data-bbox="247 1377 726 1400"><p>*当日はコロナウイルス感染予防対策として手洗いの消毒・マスク着用のご協力をお願いします</p></div> <div data-bbox="231 1411 774 1500"><p>*参加希望の方は下記にご連絡ください。迷っている方もぜひご相談ください。 *ご家族の方は別室をご用意しておりますので、おかつろぎください。 *心配なこと、お聞きになりたいこと、必要なサポートなどお気軽にお問い合わせください。</p></div> <div data-bbox="231 1523 462 1713"><p>参加ご希望の方は 8月31日（月） までにご連絡ください</p><p>連絡先： 滝沢 静江 ☎ 090-2647-3482</p></div> <div data-bbox="478 1489 782 1736"></div>	<div data-bbox="821 952 1396 1019"><p>高次脳機能障害友の会 いばらき</p><h3>当事者の会のルール</h3></div> <div data-bbox="845 1086 1380 1668"><ol style="list-style-type: none">(1) 言いつばなし、聞きっぱなしで後から質問しましょう。(2) 他人の話は、批判しないで聞きましょう。(3) 話したくないことや、話す準備のないときや、負担になりそうときは、パスしましょう。(4) トイレに行きたいときや、体調が悪いときは無理をせず手を挙げて伝えましょう。途中で退席しても構いません。(5) ここで聞いたことは、他で話しません。(6) 自分の個人情報（連絡先、住所等）は、自分の責任で管理しましょう。聞かれても答えたくない時は、「言いたくありません」と言きましょう。(7) 他人の個人情報（連絡先、住所等）は、無理に聞かないようにしましょう。</div>
--	--

※土浦市役所障害福祉課 土浦療育支援センター所長 直井洋明様より、駐車券200円券50枚をご寄付いただきました。当会の当事者会活動にご理解とご協力をいただき、ご厚意に深く感謝申し上げます。今後の活動に有P効に活用させていただきます。

高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議に参加して

～～ 高次脳機能障害情報・支援センター(国立障害者リハビリテーションセンター)支援普及事業 ～～

日時：令和2年7月17日13:00～配信開始 オンライン会議 滝沢静江

国立リハビリテーションセンターの高次脳機能障害情報・支援センターでは、支援普及事業として毎年「高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議」を開催しています。全国の高次脳機能障害支援コーディネーターや福祉課職員が一堂に集まり行われるのですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大によりオンラインでの開催となりました。昨年、会員の石崎泰子さんが出版された本「お母さんのこと忘れたらごめんね」を高次脳機能障害情報・支援センターの深津怜子センター長にお送りしたことから当会の事を気に留めてくださり、今年度の会議に講師として招いてくださいました。娘さんの石崎美香さんと私と2人で「家族会についてと当事者の声」を発表しました。

<実績報告会>

沖縄県の取り組み「沖縄リハビリテーションセンター病院」

沖縄県は、県内のごく限られたエリアのモノレール以外は鉄道が無く、車に依存した社会になっています。沖縄リハビリテーションセンター病院での高次脳機能障害の支援体制の中に Dr、OT、ST、MSW のメンバー構成から成る「自動車運転再開支援班」という研究班があり、他にも作業療法士会や自動車学校とも協力し合い、自動車運転再開に向けての研究と支援を行っています。茨城県もやはり、生活に自動車は欠かせない交通手段になっています。沖縄県での研究と支援は、今後も注目したい取り組みとと思いました。

新潟県の取り組み「新潟県精神保健福祉センター」

広い県内のどこでも同じ様な支援を受けられるよう、7 圏域の精神保健福祉センター内に高次脳機能障害相談支援センターが設置されています。精神保健福祉相談員が地域の当事者や家族、支援者からの相談を受けコーディネートをしています。おこなっている事業内容の中でも家族等支援がとても充実していて、家族教室家族のつどい・当事者のつどいを開催しています。そして、平成30年に県の事業として429の医療機関に「高次脳機能障害に関するアンケート調査」を行いました。調査結果は県のホームページに公表し、個別支援や体制の整備、そして今後の事業展開に反映させていくとの事でした。

<講演>

支援者の立場から

神奈川県総合リハビリテーション事業団 地域リハビリテーション支援センター総括主査 瀧澤 学 氏からのお話しです。病院の MSW として患者や家族からの相談を受け、地域で社会資源を使いながら受傷後の生活を立て直す為の相談支援をされています。多職種連携による事例検討会を重ねるなどして多くの高次脳機能障害者を支援してこられ、様々な経験をされているからこそその貴重なお話しばかりでした。地域での啓発活動としての講演や、日本損保協会助成による「高次脳機能障害支援コーディネーター多職種連携支援・事例検討会・制度活用の手引き」の発行に世話人として携わるなど、様々なことに尽力をされています。

当事者の家族の立場から

「高次脳機能障害友の会・いばらき」のこれまでの歩みや、当会の活動の紹介をしました。そして会設立から16年が経ち、高次脳機能障害支援センターや様々な方面の支援者との連携で、活動の充実を図れるようになってきた事、そして家族会からみた茨城県の高次脳機能障害支援の状況と、課題についてもお話ししました。

そして石崎美香さんからは、ご自身を突然襲った病、抗 NMDA 受容体脳炎を患ったことで高次脳機能障害になり、社会復帰に向けては大変苦勞を重ねてきました。その時に感じたご自分の想いを発表していただき、少しずつ生活も落ち着いてきた今は「つらい事はありましたが、病気にならなかつたら出会えなかつた方達と出会えたこと、そして今の環境にいられることをプラスに考えている。」と発表されました。今回発表したことが少しでも聞いてくださる方の心に伝わり、皆さんのこれからのお仕事や、同じ障がいを持つ方々にも役に立てれば嬉しいと話してくださいました。

最後の閉会のご挨拶をされていた深津怜子先生から美香さんに「社会復帰してから高次脳機能障害の評価をうけるまでにどの位の時間がかかったの？」と質問をされました。2年半位と答えると「そんなにかかったのね。もっと早くしてもらえたら、辛い思いや大変な苦勞もしなくて済んだのにね。高次脳機能障害に関わるものを代表して、お詫びさせてもらいます。」と仰ってくださいました。美香さんにとっては何よりの応援の言葉になったのではないのでしょうか。

※今回の会議は高次脳機能障害情報・支援センターのHPに、支援普及事業として資料が掲載されています。

◎お買い物大好きママさん

水戸市 加藤ドーリスさん

想像を絶するような困難に遭いながらも、明るく生きる加藤ドーリスさんにお話をお聞きしました。ドーリスさんはガーナ出身の43歳。中学1年生の息子さんをもつママさんです。ご主人の雅春さんがJICA 青年海外協力隊員としてガーナに派遣されていた時に出会い、帰国後に二人は結婚をされました。楽しい新婚生活も束の間、日本では色々な困難が待ち受けていました。



◇ 出産後の脳出血で半身まひ、高次脳機能障害に

待望の長男が生まれてから12日後、突然頭痛を訴え救急搬送されました。診断は「高血圧性脳出血」でした。幸い一命は取り留めましたが、左半身にまひが残りました。ご主人との二人三脚での懸命なリハビリの結果、今では片手だけで色々な家事をこなせるまでになりました。(ご主人のフォローもかなりありますが)現在は、週に1日、城里町の「フロイデ工房しろさと」でリハビリを兼ねて作業をしています。

◇ 2012年喉頭がんに、そして翌年再発し、声を失う

懸命なリハビリを続けていた頃、今度は『喉頭がん』が見つかりました。化学放射線治療をしましたが、1年後に再発したため喉頭を全摘出しました。

そして完全に声を失いました。(歌手の「つんくみさん」と同じ状態だそうです)しかし、ドーリスさんは食道と気道を管でつないで声を出すシャント発声ができるので、耳を澄まして聞けば意思疎通は可能でした。ご主人との会話は英語が中心とのことですが、日本語もとてもお上手でした。



◇ 楽しみはデパートでのお買い物

ドーリスさんの一番の楽しみは、お買い物と、お気に入りのレストランでの食事だそうです。もともと行動的な方だったので、家にじっとしていると悲しくなってしまうとのことでした。主に買い物は茨城県で地域随一のデパート(水戸京成百貨店)に出かけます。出かける際はロフトランド杖を持参していますが、デパートに着くと車いすに乗り換えるそうです。又、おしゃれなレストランも好きで、お気に入りのイタリアンレストランがつくば市にあり、家族三人で時々食事を楽しまれているとのことでした。

★ご主人の雅春さんのお話

彼女はとても気丈な女性です。ガーナという国民性でもあるのか、状況を受け入れるのがとても上手です。私は自分たちの状況を生き地獄だと思っていましたが、彼女は辛いことも全て自然に受け入れようとしています。そんな彼女に私は救われました。

関係機関訪問①

※副理事長の平塚芳久さん、サービス管理責任者の黒岩直人さんにお話を伺いました。

障害者就業・生活支援センター「かすみ」

住所 土浦市真鍋新町1-14

電話 029-827-1104



◎ 障害のある方の身近な地域において、就業面と生活面の一体的な相談・支援を行っています。一般企業で働きたい障害のある方や、その雇用に取り組んでいる企業の方々への相談・支援を行っています。

・開設日時 月曜日～金曜日（8：30～17：00）

・利用料 無料

・利用方法 事前予約をお願いします。

◇年に4回交流会を行っています。卒業生もたくさん参加します。

◎ 支援の内容

①職場定着支援（3年半）※月に1回会社訪問をしています。

②就業に関する相談

③職業準備訓練・職場実習のあっせん

④ハローワーク等関係機関との連絡調整

⑤就業に伴う生活相談助言

登録者数 679名
相談件数 1764件
会社訪問 589件
※件数は延べ件数

茨城障害者雇用支援センター

◎ 上記の「かすみ」と同敷地内で、就労移行支援事業も行っています。

・訓練期間 2年間

・対象者 受給者証を持っている方
（1週間の体験利用）

・定員 20名

◎ 提供するサービス（職業準備訓練）

・就労に必要な知識及び能力の向上のために訓練等の支援を行います。

・段階的に作業の難易度を上げていき一人一人の適性を把握、能力を活かせる職場開拓と実習の機会を提供（ステップアップフローと職場実習）

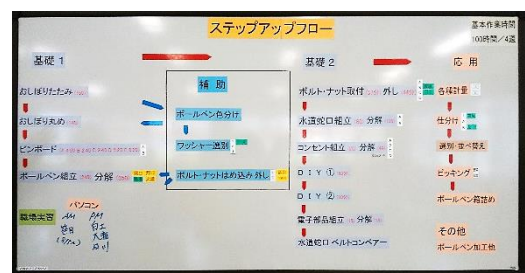
・職場定着支援を行っています。

◎ 主な訓練内容

・おしぼり作業 ・各種組み立て分解作業

・PC ・仕分け、ピッキング作業

・ビジネスマナー ・朝終礼時の挨拶訓練など



関係機関訪問②

土浦市社会福祉協議会

住所 土浦市大和町9番2号
土浦市総合福祉会館内（ウララ2ビル4階）
電話 029-821-5995

※お話は事務局次長の小関保行さんに伺いました。
（高校野球の審判もされるそうです。）

◎ふれあいネットワーク

土浦市内の8つの中学校区を「福祉コミュニティ圏」と捉え、保険・福祉・医療の専門スタッフにより要支援者や家族をサポートするために推進している事業です。

各地区のコミュニティセンター（公民館）は、地域に密着した福祉の窓口として必要な情報を提供したり、様々な相談に応じたりしています。

また、社協職員の方を「地域ケアコーディネーター」としてそれぞれ1名配置しています。

◇相談の内容としては？

- ・同居の家族に介護支援が必要になった。
- ・一人暮らしの高齢者が食事作りに困っている。
- ・福祉サービスを利用したい。
- ・育児支援を受けたい。
- ・福祉等に関する情報を知りたい。 など

◇相談からサービス提供まで

各地区からの相談内容について、様々な職種の関係者による調整会議を2月に1回行っています。（ふれあい調整会議）

実務者レベルでの会議は1月に1回行っています。（スクラムネット）

ケア・サポートチームによる会議は随時行います。（ケア会議）

◎日常生活自立支援事業

全国すべての社協で行われている事業です。自分一人で福祉サービスの契約などの判断が不安な方や、生活費の管理に困っている人などが利用できます。サービスの内容としては、福祉サービス利用の申し込み、契約手続き、日常的なお金の出し入れ、預金通帳の預かりなどのお手伝いをしてもらいます。



相談時間

火～日曜日

8:30～17:15

月曜日は土浦社協に相談

8:30～17:15

高次脳機能障害者支援センターだより

サービスの概要

- 当事者やその家族、関係機関等からの相談に応じ、包括的にコーディネートします。
- 相談・技術支援に関しては、相談者のニーズに応じて、県内全体への*注)「モバイル型支援」を茨城県独自の支援方法として位置付けて運営します。
- 各種相談対応や研修会を通して、関係機関との連携を強化し、支援体制を整備します。

*注)「モバイル型支援」とは以下の4つの特徴からなる支援です。

1. 当事者・家族・支援者・関係機関・地域住民まで幅広い対象において、
2. 課題が発生している現場にできる限りおもむき、
3. 現場での状況や視点に基づいて、各職種による専門的な見立てをし、
4. 支援の対象者が主体的に問題を解決できるサポートを展開していくことです。

令和2年度第一回高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会

令和2年8月24日(月) 13:30~15:30

茨城県立医療大学 福利厚生棟 集会室

茨城県高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会に参加して 細川 善満

私は役員会の中で茨城県高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会(以下協議会という)に興味があったのでその雰囲気味わいたいと思い8月24日の会合に申込みオブザーバーとして出席してきました。

当初協議会会合は各支援者の代表者(ソーシャルワーカー協会・障害者職業センター・理学療法士会・言語聴覚士会・作業療法士会・医師会・大学教授・支援団体・家族会)が委員となりそれぞれの活動を報告し合うのかと思っていたがそうではなく高次脳機能障害支援センター(以下支援センターという)が令和2年度の実績を報告し令和3年度活動方針を説明し、それに対し各支援者の代表が意見ならびに要望提案する形式であった。高次脳機能障害者支援をより良くするためのPDCAサイクル(プラン・実行・検証・行動)のPとCの役割を担っていると考えられます。会合内容の詳細は省略しますが、①地域支援拠点機関(医療機関)5か所について、②支援コーディネーターの配置について③他の障害との重複について④グループホームでの課題⑤各ネットワークとの重複⑥縦割りだけでなく横やりの必要性等高次脳機能障害者支援について多岐にわたって真剣に考えてくれているのはうれしい限りであった。今回オブザーバーとして参加して生の声が聴けてよかった。3年前に支援センターが出来た効果徐徐に出てきてさらに将来希望が持てる。この協議会の活動にも今後益々期待をしたい。

お知らせ

◇NPO 法人「日本高次脳機能障害友の会」の理事長古謝由美さんが退任され、新理事長として片岡保憲さんが就任されました。尚、「日本高次脳機能障害第20回全国大会2020in福島」は、令和3年に延期となりました。

◇例年実施の「県リハビリ講習会」は、今年度は中止となりました。

★表紙の裏(48号内容一覧)の写真動画を見るためにQRコードを掲載しました。しかし、現在はアップロードしたユーザにより削除されていて、そのQRコードからは視られません。

新たに別のQRコードを載せますので、
こちらからご覧ください。



新聞記事より

◎茨城新聞の「リハビリ忍法帖」に、当会でもお世話になっている言語聴覚士の吉田真由美先生のごことが掲載されていました。



「全国失語症者のつどいinやまなし」もコロナにやられた。失語症の人はそうでなくても外出や人と会う機会が少ない。年に1回、全国の失語症者に呼び掛けた大会だったのに残念だった。

失語症は、話せない、聞いて理解できない、書けない、読めない、という言語によるコミュニケーションに障害された状態のこと、それだけの働きがいろいろな程度に障害される。別に感情がなくなったわけでも、状況判断が悪くなったわけでもない。言語による理解や表出ができないだけである。

ドクター大田の
リハビリ忍法帖
超高齢化社会の自助共助
第674回

失語症者のつどいも

失語症は、言語を理解できない外国の旅で一人ツアーから離れた状況を考えると分かりやすい。通訳がいなければ言語での意思の疎通はできない。その通訳に当たる人を失語症パートナーといい、やっとその人たちの養成を国も推奨し始めた。

失語症の人たちが集まる会は当たり前だが静かだ。やじを飛ばす人はいない。しかし、状況判断はできるから顔なじみとあいさつはできる。忍者は全国大会に第1回の大会から出席してきた。毎年呼んでくれるので知り合いは多い。水戸市で開催した時にも全国から大勢の失語症の人が集まってきて、前夜の交流会は盛り上がった。

言語聴覚士が陰で大会を支えているが、茨城県の大会は水戸の「葵の会」が中心で、言語聴覚士の吉田真由美さんが応援してくれた。彼女のファンは全国にも多い。

今年の大会は山梨県。来年に延期されたそう。山梨県にはリハビリテーションの病院が多く何回も訪ねていたのに…。

失語症は、言語を理解できない外国の旅で一人ツアーから離れた状況を考えると分かりやすい。通訳がいなければ言語での意思の疎通はできない。その通訳に当たる人を失語症パートナーといい、やっとその人たちの養成を国も推奨し始めた。

失語症は、言語を理解できない外国の旅で一人ツアーから離れた状況を考えると分かりやすい。通訳がいなければ言語での意思の疎通はできない。その通訳に当たる人を失語症パートナーといい、やっとその人たちの養成を国も推奨し始めた。

大田仁史

茨城県立健康プラザ管理者・医学博士

※広報誌「筑波のかえる」は、「茨城県福祉団体補助金」により発行しています。